



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：イブラーヒーミー国連特使が辞任

2014年5月13日、国連はシリア紛争を担当するイブラーヒーミー特使が辞任すると発表した。同特使は、2012年に国連・アラブ連盟の共同特使としてシリア紛争の当事者との交渉にあたり、2014年1月末にシリア政府、反体制派の一部、その他当事者国多数が一堂に会する「ジュネーブ2」会議の開催にこぎつけたが、実際にシリアで起きている破壊と殺戮・人道危機の改善にはほとんど寄与しなかった。同特使は、5月末で辞任する予定である。14日付『シャルク・ル・アウサト』紙は、後任の候補者としてハビエル・ソラナ（元EU外交代表）、ケビン・マイケル・ラッド（元オーストラリア首相）、カマル・マルジャーニ（チュニジアの政治家・外交官）らが挙がっていると報じた。一方、同日付『サフィール』紙は、イブラーヒーミー特使の辞任に先立ち、シリア紛争を担当する国連の交渉団幹部のナーシル・キドワ氏、ムフタール・ラマーニー氏が辞任しており、国連の交渉団が総崩れ状態にある現状を指摘した。

シリアの民間紙の『ワタン』はイブラーヒーミー特使の辞任について報じる記事で、「同特使は“サウジの息のかかった人物”として着任し、ジュネーブ2会議の際をはじめ一貫して（反体制派の）国民連立に露骨に偏向した。観測筋は、これこそが国連による調停任務失敗の重要な原因であるとみなしている」と酷評した。なお、現時点では本件に関するシリア政府からの公式発表や、同国の公営報道機関による論評はない。

昨今のシリア情勢を考えると、イブラーヒーミー特使の辞任や後任の人選が情勢に与える影響は小さい。現在、国民連立のジャルバー代表一行がアメリカ、イギリスを訪問し「軍事的均衡を変えるため」の高性能兵器の供給を要請するなどの活動をしているが、軍事援助強化の確約は得られないでいる。また、現地では「イラクとシャームのイスラーム国」、「ヌスラ戦線」や「自由シリア軍」を自称する武装勢力諸派間の抗争が激化し、国民連立はこうした情勢を統制する能力が全くない。そうした中、シリア政府はホムスからの反体制派戦闘員の退去を実現した。また、シリアでは6月3日に投票が行われる予定の大統領選挙の選挙戦が既に始まっている。反体制派やそれに与する諸国は、現時点ではアサド政権に妥協を強いたり、同政権から譲歩を勝ち取ったりすることができる状況にはなく、戦略・戦術を大幅に修正しなければ、長期的にはアサド政権勝利という現状を追認する以外ない状態にある。

（高岡上席研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799